《この本は、絶対読んで！3》

『もものかんずめ』
と
『さるのこしかけ』　　さくら　ももこ　著

もうたくさんの方が読まれているかも知れませんが、今回は人気ＴＶアニメ”ちびまる子ちゃん”の作者が書いたおもしろいエッセイを紹介しま～す。

おもしろいアニメを描く漫画家が書いた本、ということで興味を持ったけど、それ以上に”静岡出身の同世代の女性”にぴぴっとくるものを感じました。私事で恐縮ですが、大学４年間を静岡で過ごした私にとって、なんか、ももこさんは全くの他人とは思えないのです。（ぐうたらな性格とかも･･･）

もう１年以上前、私がプロップに参加する前に読んだ「もものかんずめ」。ゲラゲラ笑いながらあっという間に読んでしまった。内容について詳しく覚えていたのは、”奇跡の水虫治療”だけだった。ただひたすら『おもしろい！』というのが、私の感想でした。

そして待望の書き下ろしエッセイ第２弾、「さるのこしかけ」が今年７月、出版されました。「もものかんずめ」の強烈な印象があったので、今回も爆笑だろうとわくわくしながら読んでみる。やっぱりおもしろかった。どこで読んでいても”くっくっ・・・”と笑ってしまった。水虫治療に続く万病治療法第２弾の紹介。とてもマネできそうにないと思いながらも、腰痛、肩こりなどが一切なくなってしまうと聞くと、”ちょっとやってみようかな？”っという気にさせられる魅力十分（？）の”飲尿療法”の紹介とか。。。

しかし、今回はただおもしろいというだけではなかったんです。子どもの頃の事から現在に至るまでのももこさんや家族、回りの人たちのことを彼女独特の言い回しでおもしろおかしく表現しているけど、ももこさんのやさしさや心の奥深さが見えたような作品がたくさんあった気がします。

中でも”いさお君がいた日々”が、一番印象的でした。ももこさんが小学校３年生から６年生までの頃のこと。彼女の小学校には普通の学習についてい

くのが少し難しいと思われる子供が入る特殊学級があり、ここにいさお君が転校してきたことから話は始まります。いさお君は3年生として入ってきたが、「明らかに15歳ぐらいの風貌であった」ということは、回りの生徒からすると大きな抵抗になっていたかもしれない。ある日、彼が学校を逃げだすという事件が発生した。クラスの生徒達は呆れたり苦笑したりしているが、彼女は「心の中でいさお君に大声援を送っていた」という。「彼が行ってみたいところに行ってほしい。いろいろなものを見て自由に楽しんでほしい」と願っていた。そして、全校放送でいさお君が八百屋の店先でトマトをとって食べようとしているところを捕まったことを聞くと、「ただ、いさお君がトマトを食べさせてもらえたかどうか、それだけが心配だった」というのには、ちょっと私も驚いた。わたしなら「ひどく叱られているんじゃないか？」というようなことばかり気になっていただろうから。

いさお君のニュートラルな感性、エネルギーがももこさんに与えた影響は相当大きいものであったようです。彼女のような感性を持った人ばかりだったら”いじめ”なんかなくなるだろうに、と思う。

さるのこしかけ

さくら ももこ

さるのこしかけ

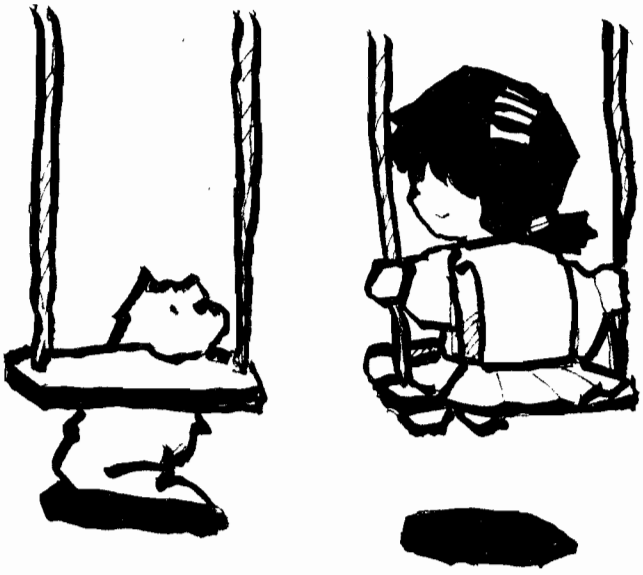
さくらももこ

最近、これを書くために「もものかんずめ」を読み返してみた。やっぱりおもしろい！そして、前には気がつかなかった彼女のやさしさ、奥深さを感じた。これは、プロップでこの1年間いろいろなことを自分なりに考えたり、悩んだりしたことから、気がつけるようになったのではないか、という気がしている。もし、プロップにいなかったら、「さるのこしかけ」もまた、ゲラゲラ笑って”あーおもしろかった”の感想で終わっていたかもしれない。

それにしても、この人は本当に想像力豊かな人なんだなぁとつくづく感心してしまう。作家と言われる人は、大なり小なりそうでなければやっていけないのだろうけど。。。夢見るお嬢様になったりするのは、女の子ならまぁそんなビックリするようなことじゃないけど、ふとしたことから自分がどんどんグレていき、心の中ではすっかり不良、なんて空想までしている。ケタはずれの想像力には本当に感心する。（ちょっと、呆れるところもある･･･）

「もものかんずめ」は１００万部突破のミリオンセラーとなった。「さるのこしかけ」もミリオンセラーまちがいなし！

うちの母も愛読してるこの本は、絶対読んで！

（「もものかんずめ」Ｂ６版ハードカバー、２３７頁、850円、集英社）

（「さるのこしかけ」Ｂ６版ハードカバー、２３７頁、900円、集英社）